

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】

- ◆ 『 落ち着きのない子への言葉かけ・対応の仕方。 』

【メモ】

支援員が矢を予測して動く。パニックになる前に そうばらばらに。パニックになるものと視界からそらし回避する。注意引きで大きな声を出したりする子には大きな声を出そうにしたら時にその子に発言してもらっていいし 成功体験につなげる。

- ◆ 『 支援員の配置・関わり方 』

【メモ】

低学年は子供1人に対し 1名1人ついてた。高学年は子供5・6人に対し1人ほど。集団療育中は5人に対して1人。子供よりスタッフの方が多し。高学年は、自分で考えていろいろなことが出来るように言葉をかけていた。

- ◆ 『 環境整備 』

【メモ】

子供の目線であらうと良い高さのロッカーに おもちゃ類・本類が設置されている。部屋と部屋の仕切りも大人は隣が見えるが子供からは見え高い高さで全体が見渡せている。ケルグランドで遊ぶ場所も数ヶ所ある。療育を行う部屋も子供のサイズに合わせ、机の高さも変えられる。

<感想>

想像していた子供達と違い、皆、先生達の話を聞いて、楽しそうに活動していたので少し驚きつ。療育を受けているからなのかなとも感じました。その子が何に困っていて行動を起こすのかを、^{「～してはダメ」ではなく「何故？」}というように目に向け考える。成功体験で次につなげる。静と動の切り替えをする。ぜひ学童でも取り入れられることは試してみようと思いました。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】

- ◆ 『 一日のスケジュール（その子にあったスケジュールはあるのか） 』

【メモ】

一人ひとりに合わせたやり方 “ねらい” “目的” “活動” の流れを記録して繰り返す = 自信がつく。 学習・トレーニング・集団活動などメリハリをつけたスケジュールにする。 平日1〜2回のペースでOT/STの個別療養がある。

- ◆ 『 きまり・ルールは どのように示しているのか 』

【メモ】

目で見えわかるようにする。掲示物は必要な物だけ貼る。
できたらシールを貼る ポイントをためるとおやつ交換・ゲームソフト30分間使用になるので 目標に向かってがんばろうと言うかにつながる。

- ◆ 『 保護者との連絡方法 』

【メモ】

スマホを使用して 毎日の様子を写真と文章で伝えている。保護者からのコメントもふき 自宅での様子などやり取りが行える。

<感想>

環境作り、仕切りを大人が立ち見渡せる高さにしている。ツールダウンできる部屋・壁の色など安心して過ごせるように工夫されていました。先生達は常に自己研鑽に励み子ども達一人ひとりに合わせた声かけや関わりを大切にしている成功体験を沢山ほめるのばすことと心がけている事に見習う点が多々ありました。楽しく過ごしている子ども達の笑顔がとても印象に残っています。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】

◆ 『トレーニング、集団活動時の言葉かけと見守り方』

【メモ】

鬼ごっこを行う際のルールの説明が端的で分かりやすかった。

児童の話聞きながらもスムーズに活動に移っていた。活動しながら児童の様子を確認し、活動範囲、ルールを変えていながら流れがスムーズだった。

◆ 『トラブル対応、トラブル回避方法』

【メモ】

大きなトラブルはなかったが、自分が鬼になった児童が納得いかない様子だったが、「大丈夫、次があるよ」と声かけしトラブルにならず活動を続けることが出来た。的確な声かけが重要と実感した。

◆ 『問題行動をした児童への言葉かけ（プラスに言い換える方法）』

【メモ】

問題行動をしている児童はいなかったが、常に児童の行動を見守り声かけをしていた。

<感想>

今回ハッピースマイルさんを見学し、ひとりひとりの児童に合った療育活動を行っていたので通所している児童は自己肯定感を高めるようになり幸せだと思った。学童でもトラブルになる前に声かけをし、気持ちの切り替えをしたり、どうしても叱る場面が多くなってしまうので、児童の話、いの声を聞いて、プラスに言い換えることが出来るようになればと思った。代表・鹿島さんへの質疑応答は具体的に分かりやすかった。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】

◆ 『 子供と指導員の距離感 』

【×モ】

マンツーマンで見ている子供でも、状況に応じて集団の中に入り自然に溶け込ませ遊ばせていました。常に全ての子供に向き合っている印象を受けました。

◆ 『 事業所の環境整備 』

【×モ】

小さな子供でも分かりやすく図でルールの説明など表示し壁に貼ったり、バウチンがありました。フールランが出来るスペースや何箇所もありそこには余計なものは何もありません。現在遊んでいる部屋も含め散らかっている場所が全くありませんでした。

◆ 『 子供と指導員の会話 』

【×モ】

指導員は皆さん穏やかな口調で子供を応援し褒め言葉をかけていました。子供も大声を出すといった事もなく笑顔で指導員と話していました。

<感想>

から放デイに変更又はどちらも利用している児童をみていると明らかに良い方向に変化していると感じていました。今回事業所を見学することにより短い時間ではありましたがその理由が理解出来る気がしました。放デイと必要とする児童の保護者にも見学する事で出来る機会を持つればと痛感しました。環境整備や児童の信頼関係の築き方など参考になる点も多く意義深いものでした。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】

◆ 『児童発達支援、放課後等デイサービス』

ハッピースマイル

【メモ】

一人ひとりに合わせた「環境・声かけ・関わり」を大切にしている。リハビリ特化型 全スタッフがリハビリ専門の有資格者である

◆ 『リハビリ職』

【メモ】

作業療法士…日常生活動作や買い物、バスの乗り降りなどが得意
言語聴覚士、心理士…コミュニケーション、言語、注意面が得意
理学療法士…体の使い方から辛くなく、負担なく過せる方法、
ひとつのことをいろいろな方向から見立てることができて

◆ 『一人ひとりに合わせた目標設定』

一人ひとりにあったベストな
形にできる

【メモ】

考えられる要因から分析、対策をしっかり行い、生きる
力、自立の力を育てる 自分の人生を自分で選択出来る
力をつける

<感想>

「放課後デイサービス」を実際に見てみたかったのが、今回実現できたこと
嬉しく思います。「学童」とは、目的、役割が違っていると思いますが
信頼関係の大切さや子供の動きの予測をして動き手を工夫し、
成功体験から笑顔でできる事を増やすなど、共通してできる
事、実際にやっている事など、確認できて良かったです

「放課後デイサービス、学童」お互いが情報を交換しつつ、お互いの
役割を担う事が本当に大切だと思いました

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】 "ハッピースマイル"

◆ 『ルールが守れない児童の支援の仕方』

【メモ】

現場で走り回っていたり、暴れていた児童はいませんでした。
鹿島さんの話から暴れる児童→別室に入りクールダウンさせる→落ちついたらお話をあ
る→黙って見守る→分かれば入付→それを何度も繰り返し支援すると良い。

◆ 『環境作り』

【メモ】

視覚・聴覚を使ったアプローチ。「おかえりなさい」「学習時間」「帰りの支度」など
旧の流れや「感覚統合室でのルール」など目で見え分かる様に表示であった。
子供達には活しやすい様に見える化で掲示物を貼り工夫。

◆ 『保護者の対応』

【メモ】

保護者との関わり-毎写真と文章で伝達。「〇〇に頑張ってるチャレンジしました」
「お母さんお父さん喜んであげて下さい」と親が児童の事を沢山誉める様に促す。
お父さんが喜んであげる機会を作っている。保護者と情報交換・共有する事も大切。

<感想>とても勉強になりました。出来る事から学童で実践したいと思います。
放デイ(ハッピースマイル)では私の思っていた児童の様子と異なり、落ちついて勉強をしたり、
楽しそうにゲームをしていた。児童のために教室の作りもすごく工夫されていました。
一人ひとりに合わせた環境作り・声かけ・関わりを大切にしていた。その子その子に
合わせた支援と沢山誉める事が発達障害の児童に必要である。生活環境では、クル
ーダウンさせる空間を作る。そして繰り返し支援する。掲示物は見える化で表示する。
低学年も高学年も皆落ちついて生活しとても楽しそうに活動している者を見て放デイと手
付け。その子/合居場所を活動できるとその子にとって過激なやうに幸せだと思いました。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想

【 考察箇所 】



ハッピースマイル

◆ 『 支援する子供との距離感 』

【メモ】

3才~6才位の教室では、絵を書いたり、学校の宿題をしている子がいたりして、
教員の方は、宿題の解き方のアドバイスをしたり、子どもの目標になってつかうのは、
おいて、着める時はしっかりと言葉かけしていました。子供の様子を見て的確に声かけ子供が
自分で考えたり、自分で見守ることも大切だと思います。

◆ 『 小学校 中高学年の放課後等デイサービスの1日の過ごし方 』

【メモ】

中高学年は、建屋の2Fで、各学年、何人も別室に分かれていて各自で模造紙や自分で
のスケジュールを決めて通っている。その中でも身体を動かす時間では、クレーンで、
を動かして、クレーンワークなどをして意見交換をして通っているのを見学できて良かった。

◆ 『 教室間の区切り、子供達が利用する物の配置 』

【メモ】

教室内は、大人の高さで、いくつかの壁で区切られている。それ以外にも壁などに、何かが
貼られていて、色や名前をしっかりと
付けている物をあかずにしていた。

<感想>

今回ハッピーマイルスクールを見学して子供達一人一人が目標を持って自立するための生活支援
身体的支援などについて「正、動」の切り替えが大切だと言うことが子供に夢をかける時、
ことは、しっかりと、着めることは、自分で決断に依る。これ、学童クラブでも大切だと思いを
支援が必要の子供のための「クルタラン」をする場所も私は、回りが良い場所だと思
いながら、今回の見学で、その子供が「リラックス」できる場所が、良いと聞いたので、学童クラブ
でも実行しようと思いました。意見交換の場でも子供側に立った声かけのしかた、対応など、保護者
への声かけについても、良いアドバイスをいただきました。見学できて良かった。

ハッピースマイル

◆ 『児童の活動の様子や場所、』

グループで活動をする時間と、個別にやることとする時間があり、見学に行き時は
グループで活動していた。個々に合えられながらと変遷がグループ活動に参加できていた。2Fの72L
では、パソコンを使用はリウ室内人達やゲームに興じていた。1人の女の子(高学年)が和霆のことか
うなづいてるように感じた。その後、鹿島はわいがらあて入会して来たが、こがらがりまのサマには
うなづいたのかと聞いた。

◆ 『...+2 スマイルの理念と特色』

(1) 1人に令かせた。環境、場所、方法、時間、道具、手紙、金、武器、
で釣れること。喜ぶ者がうらいたのまにが生きる力がつくこと。アノラ同士の情報共有は朝の
5時のアノラ録音し、全員がそれを聞くこと。リハビリ職の専門性というのではないアノラ
と両知職を含め持っている。

◆ 『保護者との関わり方』

保護者は療育中の様子をスラホでいつでも見える。又、写真も4枚まで撮ることができる。良かったこと出来たことを伝える。又保護者本人の困りごとなどを聞く。保護者に対しての言葉の選が大事なこと。この時話さなければ言葉の使っ方はかなり考へになり個人的に取り入れたい。

当学童クラブでは、訪レ見学最後は正のど、先に参加した児童から報告書で先ノ観
がけあるが、私は今回参加した正のどと児童館に伺った。施設の子のさと人員配置などは、
主旨が違ふのどは正のものではない。子ども達が生き生きと語りが参加できよう様子が是科のどと比べた。
又、児童館の話を聞いた正何れも良かった。所が密かに出来そうヒントがあったので、出来そう
なところからあつて当学童クラブの観るが学童のいふようである。

訪レと学童クラブは主旨が違ふ点においては再共有が必要かと思う。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】

◆ 『発達児の何に気をつけるか 又その保護者への対応』

【メモ】

対応する大人は「余裕を持っていなければならぬ。子に対して「自分がとうにかしてあげたい」と感情移入して本気になりすぎるとは良くない」引いて見ている事。子の支援は多人数で2人対応共依存にならないようにする為。障害に対して知識を持つ事が特に大事で次にその子が「興味を増やし、その中で成功体験を増やして行く」スモールステップで「見える化（自信をつけさせる）」そして上記の事を保護者にどう説明するかが重要（少しづつ理解して頂く）

◆ 『多人数いる教室で走り回ってしまう子に対する対応』

【メモ】

特にその子にとっての考えられる様々な要因を考える。次にこの中から他の行動を照らし合わせて要因を狭めて行く最後に対策を考える。感覚の場合「走ってはダメ」との支援で無く、良い場所、ダメな場所を決める。走らない目標で無く、走って良い場所で走る「満足を感じさせる→もどる」。走りたい時自分から「先生に伝える」事が出来るようにする事で達成感を持つ事が大事。

◆ 『集団活動に参加する事をいやがる子の対応』

【メモ】

特に「要因」を考える。①興味が無い ②失敗が怖い ③どうして良いかわからない ④大勢が嫌い。次に「分析」子の視線・行動・発言をみる最後に「対策」①場の共有 ②大人が子の自己肯定感を低下させないであげる ③聴覚的理解力が弱い場合はスモールステップで ④苦手な事は苦手、相手に不快を与えない不参加方法として参加するが逃げ場を見つかる（場の共有はするが、参加しなくて良い等）

<感想>

ハッピースマイルの理念が「成功する人生ではなく、後悔しない人生を歩める、生きる実践力をつける」社会を知って、その中で自分として他人を知ること。自分のものでも無い、自分の人生で自分自身で選択に生きて行けるようになってほしい。との思いがこもる心に響きました。改めて放課後等デイサービスと学校学童の目的・役割にちがいが有る事、それぞれの役割を担うのだという事が今回の見学で腑に落ちました。以上の事を参考に学童での支援に役立てたいと思いました。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】

◆ 『 指導室の壁に掲示物がないのは何か理由があるのか 』

掲示物は、目の邪魔にならないように必要最低限のものしか貼っていない。

目的に併せて壁の色を決めている。白は指示が入りやすい色。勉強室の壁は白ベースに青色を混ぜて、活動室は白ベースに緑色を混ぜている。

<感想>

放課後ディサービス（療育／リハビリ特化型）は、一人ひとりに寄り添った手厚いサービスを受けることができ、その子が成長できる場所だと思いました。

利用者は、10人/日と決まっていて、指導員は、ほぼマンツーマンでの指導。体を動かせるスペースや静かな環境で学習できるスペースがあり、整った環境での指導はとても羨ましく感じました。騒いでいる子もいなければ、走りまわっている子もいない。指導の成果が表れていると思いました。鹿嶋さんの掲げるハッピースマイルさんの理念にも共感しました。

鹿嶋さんには、私たちの質問に丁寧に答えていただき、とても参考になりました。早速、学童クラブで実践しています。ありがとうございました。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】

◆ 『 支援の仕方 』

【メモ】

療育として1対1の支援は、その子合った目標での支援をしていて、集団でもやはり、1人1人に合わせたやり方や目標での支援で両方とも楽しい遊びになるような支援をしていた。また大変な子に寄り添い、折り合いをつけながらトラブルを未然に防いでいた。またその支援員は、その子を見つ全見ていた。また支援は、同じトーンでし、できた事にはほめたたえ、成功体験から笑顔でできる事増やす工夫をし

◆ 『 遊びについて 』

【メモ】

年令によってさまざまな工夫のめられる遊びをしていて、遊びの中に療育として目的をもったポイントあり、目と手の協調性や距離間などを学んでいることだった。また遊びに限らずポイントあり、おやつ・ぬいぐるみ・おもしろなど興味を示す景品が置いてあり、そのポイントに向け目標を決め、欲しい物は頑張ったら交換できるという楽しさが見られた。

◆ 『 トラブルの対応 』

【メモ】

見学时は、落ち着いていてトラブルはなかった。トラブルを起す子には注意引きがあり、刺激を求めているので別室でクールダウンさせ、「無」の時間を作った方が良くとの事。その「無」の時間がもった時間だと思わせ、教室へ戻らせた方が良くとの事。根気のある事だと思いが参考になった。ハッピースマイルのクールダウン部屋は、机とイスだけで何もなく「無」の空間には最適だが、学童ではそういった環境は難しいのが現実だと思った。

<感想>

鹿島さん御夫妻の子どもに対する愛情が深く見られ微笑ましく感じた。その環境からスタッフの皆さんにも見られ、ハッピースマイルに通う子ども達は幸せだなと思った。鹿島さんのお話は分かりやすくとても参考になった。放デイと学童では何かと環境が違うため全く同じ支援はできないと思うが、基本的な「安全・安心・楽しい場所」である事は一緒である事は間違いないと思った。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】

◆ 『 指示物 どのようにしているか? 』

【×モ】

飾り付け等はしない。見える化（お約束等 文字だけで書いて置く。
目的に合わせなるべく少なく必要な事だけを書く。
紙色（白）指示が入りやすい。少し青 緑を入れる（落ち着く）

◆ 『 注目行動、注意びき 』

【×モ】

○大声で泣く等の場合、「泣きたりんだね こっちで泣いていいよ。整着いたさおいで」と言って
別室へ。戻ってきたらめいっばい楽しく遊ぶ（泣いているのがもたたりないと思わせる。）
○ブロックを蹴ったりして関わりをぎゅかりにする（注意びき）「危なかったよね」と言い別室へ入れ。
話しはしない。クールダウン出来たら戻る。又、やったさじゃあス別室へ行くとくり返す。

◆ 『 』

【×モ】

<感想>

一人一人を見る大切さ。一人一人に合わせた目標設定によりほめる事が増える。
成功体験を増やす工夫が必要（視覚、聴覚を使ったアプローチ）
おこなわれる事が刺激になっている場合もある。⇒ほめられる事の刺激に変える。
等々、色々参考になった。（支援員の増員や、クールダウン出来る場所があると
良いと思う）静と動の区別をつける事も大切だと感じた。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】

◆ 『 すぐに手を出さずともとの関わり方 』

【メモ】

注意引き = かかてもらえると思っ行動がエスカレートし止まらなくなる。
代償方法としてこの場所をあゆば - このはら と提案
一緒に行く → 促す → 自分から スタックを踏み

◆ 『 支援員言う事を聞かない子どもに対して 』

【メモ】

信頼関係のつくり方 名前を覚えてもらう
その子の良い所を見つけてほめる。
その子の得意 不得意を知り活躍出来る場を作る。

◆ 『 ミーティング 研究の大切さ 』

【メモ】

ひとり子どもに対して、どんな性格で、どんな特性があるのか。
好き嫌い、嫌いの点踏まえてその子に合った環境作りをしていく。
ミーティングも録画し不在のスタッフにも見ってもらうという点と徹底し
全員が把握できるのは素晴らしいと思った。

<感想>

今回この研究に参加した目的として、どのような子どもと通ずって
いるのか、又学童に來ている子どもの中で放課後等デイサービスを利用
した方が多いのではと思う子どもに対しての支援のヒントを得たいと思っれた。
学童では多くの子ども達を見なくては行けないので私達にも余裕が
無いのも事実で、子どもの出来事にも目を向け成功体験を増やして
いける環境づくりに努めていきたいと思っます。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



【 考察箇所 】

◆ 『発達障害の子の何に気を付ければ良いか』

【メモ】

こたけりのある子は 見通しが立っていいと不安になる
子により 色、音、物、行動によるこたけりがある
ひとりひとりに合わせた環境、声かけが大切

◆ 『保護者の方との関わり方』

【メモ】

1日の記録をつけて スマホなどで様子をどこからも見れる
保護者からのコメントも簡単で 返答率も高く かしこまらずに
相談や自宅の様子などもやり取りが行える

◆ 『子どもに文書での注意の仕方』

【メモ】

ストレートに伝えた方が良い子。
意見を聞きながら その子の小返事を聞き、得意分野などもほめたりして
気持ちをなげかせ どうしようもないのかを聞く伝える

<感想>

放課後サービスを利用している児童は暴れたり走ったりとちのかわる子という認識がありました
ハッピースマイルさんに見学に行き とても子ども達が落ちついて活動している様子見てとても驚きました
施設も壁の高さ、色、匂い、部屋も目的に合わせた工夫に区切り環境も整っていると思いました
学習時間(静)と体を動かす時間(動)の区別をつけて 次の行動に落ちついて移ることができて、
「楽し」「自分からやりたいと思う心」「出来た！」と終わる成功体験はとても大切な事なんだと、
ほめる事と関係性をつくるには大切な事、児童の良い面を伸ばして行ける支援に繋がれば
良いと思います